7月号

県連ニュース

２００９年７月１日発行
栃木県勤労者山岳連盟

２００９年クリーンハイク、登山道整備参加報告・・・1
第６期ハイキング楽校　有志卒業山行～立山・・・2

09年クリーンハイク参加報告

団　体　名	参　加日	実 施 山 域	参加人数（名）	収　集　量		
				可　燃（kg）	不　燃（kg）	
悠遊ハイキングクラブ	６月７日	竜頭滝･高山･千手が浜	17	0.4	0.3	
山人クラブ	６月７日	日光高山千手ｶﾞ浜	16	4.0	1.0	
野木山想会	６月７日	日光山域5コース	43	7.0	7.62	
上三川ハイキングクラブ	６月７日	那須南月山	13	3.0	1.5	
マロニエハイキングクラブ	６月７日	立木観音～社山	15	3.0	13.0	
宇都宮ハイキングクラブ	６月７日	中禅寺湖南岸	10	20.0	60.0	
	６月７日	中禅寺湖北岸	11	14.0	15.0	タイヤ1
	６月７日	切込･刈込湖	41	3.0	2.0	
計			166	54.4	100.42	

○ゴミの状況

皆様、ご苦労様でした。
例年通り、ハイキングコースは非常に少なく、中禅寺湖畔が多かったようです。

登山道整備参加報告

団体名	参加日	参加者
マウントアンサンブル	６月６日	2
マウントアンサンブル	６月７日	2
宇都宮ハイキングクラブ	６月６日	2
宇都宮ハイキングクラブ	６月７日	2
野木山想会	６月７日	3
計		11

第６期楽校 有志卒業山行～立山～

～雪山総合実技、残雪の立山の楽しい思い出～

日時：2009年5月3日（日）～5日（火）：参加者１６名（講師含む）

◆１日目「５月３日（日曜日）雄山登山」

・天候　：小雨から晴天

・コース：石橋P⇒岩船P⇒太田IC⇒立山IC⇒室堂Ｐ・・・室堂山荘・・・・一の越山荘・・・雄山・・・・一の越山荘・・・室堂山荘（泊）

◆２日目「５月４日（月曜日）真砂岳～別山～雷鳥沢登山」

・天候　：曇り

・コース：室堂山荘・・・一の越ルート・・・大走り南側の沢・・・真砂岳手前の稜線（富士の折立との鞍部）・・・真砂岳・・・別山・・・剣御前小舎 ・・雷鳥沢・・・室堂山荘（泊）

◆３日目「５月５日（火曜日）下山」

・天候　：曇り後雨

・コース：室堂山荘⇒立山IC⇒太田IC⇒岩船P⇒石橋P

第６期ハイキング楽校もいよいよ5月連休恒例の有志卒業山行です。これまで1年間の訓練の成果を踏まえて 残雪期の立山に行ってきました。

<1日目>

1日目は、室堂平への移動と雄山登山というハードスケジュールです。楽校生が感想文を書いてくださいましたので、 以下、読んでください。

<第６期楽校 有志卒業山行～雄山登山～感想文①>　　野木山想会　縫村勝男

私は里山を歩くのが好きです、気軽に行けるし4季折々の山が楽しめる。 でも時には、頂上から見る高い山、雪山に登ってみたい時がある ハイキング楽校に入って半年、岩　雪の講習を受けたが, 技術は初歩で まだまだですが卒業山行に参加することにしました。 山行1日目　岩舟町役場にて待ち合わせをし、総勢16名はマイクロバスで 高速道路をひたすら走って昼過ぎ室堂バスターミナルに着き、大きなザックを 背をつた人、スキーをする人、観光客の人達でいつぱいでした、ターミナル から室堂山荘までは、歩いて20分位の所にあり、山荘に荷物を置きサブザック で出発するが、これから3000m級の山に登るなんて、私には出来るかと不安に なるが、山荘から見る雄山は身近に見え、それもそのはず2450mまでバスで 登ってしまったのです。一の越まではなだ

室堂ターミナルにて準備

らかな登り、雪はやわらかで歩きやすく薄着でも汗ばむくらいで気持がいい、一の越からは雪もあまりなく,勾配が きつくなり時より冷たい強い風が吹き, 一歩づつ頂上を目指し 途中ハイマツの所にライチョウを見ることができた、しばらくして山頂に着き 360度のパノラマ色々な山々が見え、明日登る山、いつかは登ってみたい山 しばし展望を楽しむんで記念写真を撮った。

雄山神社にて

小休止後、そうそう下山を開始をするガレ場のため浮石に気を付け慎重に下り、一の越を過ぎると、尻セードで 下がろうと急な所なので恐る恐る滑ったが、前に進まない何度かためしたが 進まない、雪一面足跡だらけのため凸凹して進まないのです、あきらめて 歩くことにした。山荘に着いて風呂に入り疲れをいやした。夕食後は酒を飲み ながら懇親会が行われたが、長旅の疲れと翌日も長い時間歩く予定なので 酒も進まず、早めにおやすみをする

＜２日目＞

２日目は、今回のメイン山行となる真砂岳～別山～雷鳥沢コースの登山です。楽校生が感想文を書いてくださいましたので、以下、読んでください。

＜第６期楽校 有志卒業山行（真砂岳～別山～雷鳥沢）感想文②＞　　　　宇都宮ＨＣ　三村　武美

４時３０分に起床し早速、今日の行動に抜かりがないかザックの中身を確認をする。 いよいよ立山も二日目に入った。昨日は初日からいきなり一ノ越から雄山（３００３ｍ）まで 一気に登ったせいか少し目まいがしたが、きょうは高度に体が順応したのだろうか 体調はすこぶる良い。

朝食を早々と済ませ7時には全員が山荘の前に集合して 準備体操を念入りに行い７時１５分には出発する。

天気は薄曇状態で登山には最高のコンデションだ。丁度良い。 それにしても雪山歩行は汗を掻くのが早い。30分程歩いたと思うがすぐ汗を掻き脱ぎタイムだ。 素早くウインドブレーカーを脱ぎ軽装になる。そして、本日の第一の目標である真砂岳（２８６１ｍ） のある稜線を眺めると山一面雪で覆われている為何処からでも登れそうだ。

他のパーティが目指す一の越ルートを横切って直登する為、八木沢ＳＬが取り付き部のステップを切る。 我々は、ルート傾斜の比較的緩やかなルートを見つけトラバース気味に、立山稜線（富士の折立～真砂岳）に向かう。

時々落石した後があるので上の斜面を見張りながら小休止する。大貫ＣＬより、ルートの説明がある。

いよいよ急斜面だ。取りあえず遥か前方、沢の下部にある岩を目指して登る。　沢に入ると、先程まで雪質は比較的軟らかかった雪も次第に硬くなって来た。時々アイスバーン状態の所もある。 下を見る。もしここで滑ったらどうなるかなと思うとゾッとする。

沢に入って、八木沢ＳＬより2番目を任された。 慎重にアイゼンの爪で雪面を刺しながら登るが一回や二回では硬くてうまく刺すことが出来ない。　息が苦しくなる。後へ行こうかなと思ったが、「いや待てよここで下がったら男の名がすたる？」 と思いながら頑張った。八木沢SLのリードはゆっくりだが、着実にに高度を稼いで行く。そして、やっとの思いで稜線にたどり着く。

雪だから行ける真砂岳直登へ

稜線（富士の折立～真砂岳）に立った時は、登れたとの充実感と 立山稜線の雄大な眺めに感動で一杯でした。

やっと10時に真砂岳（２８６１m）到着する。さすがに頂上は風が強い、そして非常に風が冷たい。 比較的風の弱い所を見つけて食事タイムを取る。 それにしても何と山の景色が美しいことか、西の方角には真っ白な奥大日岳が東の方角には北アルプスを 代表する山々が誇らしく聳え立っている。自分が想像していたよりも遥かにスケールが大きい。

食事を簡単に済ませ次の目標である別山へ出発だ。

真砂岳から別山までは約１時間程の道程だが稜線歩きのため風が非常に強いし寒さを感じる。 その為か風が直接斜面にぶつかる稜線の処は雪が無く岩や石ころだらけで地肌が見えるのに対して その反対側の斜面は一面雪で覆われていた。そして大きな雪庇も口を開けていた。

剱岳をバックに記念撮影
（別山山頂付近）

１１時１５分、別山（２８７４m）に到着。ここから見る剣岳（２９９９m）が絶景だと聞いていたので、 数多くカメラに収めた。 また、以前からこの山に必ず登って見たいと云う強い気持ちがあったのでそうさせたかも知れない。 11時25分別山出発。剣御前小舎へ降りる。途中小さな岩場付近に雷鳥発見。鳥の特別天然記念物を見るのは初めてだ。　11時55分剣御前小舎到着。ここでゆっくり昼食をとって12時15分雷鳥沢から室堂山荘へ向けて出発。

雷鳥沢は距離のある長いスロープでスキーヤーにとっては最高のゲレンデだ。 そんな場所を尻セードで雪面を下りる。ある人は事前に準備してたのかビニールシートを用意して快適に滑っている人や スピードが出すぎてしまってなかなかコントロールできない人いろいろである。しかしみんな童心に返って楽しく滑っていた。

12時55分テント村？到着、ここでアイゼンを外して室堂山荘に帰る予定であったが時間に余裕があったので疑獄谷へ迂回して帰ることになった。しかし残念なことに地獄谷は有毒なガス出ているのだろうか立入禁止になっていて入ることが出来なかった。ガッカリしたせいもあり何故か急に疲れが出てきた。疲れた足取りで結局室堂山荘に着いたのは午後の2時30分であった。 そして山荘の前で全員でストレッチの時間を倍かけて行い一日の行程を終了した。

しかし、こうして後で振り返って見ても苦労して登った雪山の素晴らしさが今でも思い出される。 雪に覆われた３０００m級の山々、また雪山の稜線、それから日没の赤く染まった夕焼けは、今でも私の目に焼きついております。

＜３日目＞

３日目は下山です。今回ゲスト参加してくださった久保田さんにを感想文を書いていただきました。

＜６期楽校 有志卒業山行～全体感想文③＞　　　　マロニエハイキングクラブ　久保田　淑子

たまたまハイキング学校の第一期生あった私が、ゲスト参加と言うことで、今回で最後となる 楽校六期生の卒業立山有志山行にご一緒させて頂くことになったのは幸運でした。　雪の立山ということでとても不安でした。谷川の雪山訓練にちょっと加わっただけですし、 ヒッケルも大急ぎで買った次第です。　一日目は勝手がわからず容量の小さ過ぎるサブザックで不自由しました。 （他の人にパッキングしてもらったので、何がどこに入っているのか、さっぱりわからず、 ちょっとパニックぎみになりました）

奥大日岳の雄姿

雄山の山頂付近ではところどころ凍っている、石ごつごつの足場に神経を使い、少し頭痛も加わって 疲労困ぱいしてしまいました。　その夜の集まりで、翌朝早く出立する気力もなく、天気も崩れる可能性もあることから、 皆様の足を引っ張るのは不本意なので、宿に居残りたいと申し出ましたところ、 「今まで誰一人として宿に残った人などいない」と先生に促され翌日再び登山する決心をして床につきました。　二日目は幸い天気に恵まれ、大きなザックに入れ替えたので、気持ちにも多少ゆとりが生まれ、雷鳥や遠く白馬・鹿島槍・五竜等の山脈や目の前に迫る剣岳をカメラに収めることが出来、立山の雄大な景色を堪能しました。（ほんとうに宿に残らず良かった！） その夜の宴会では、各々の持ち寄りの酒とツマミで盛り上がり、先生の楽校にかける想いや、人生論などいろいろ話も弾み、同じ山行仲間として連帯感が生まれました。 松山さんが「楽校は楽しいよ」と言って何年も続けている気持ちが少し解ったような気がしました。 先生の観察眼の凄さとメンバー全員を如何に安全に登頂・下山させるかに配慮しているか、登山学校ならではの山行だと思いました。 二日間の長丁場の歩行にもかかわらず、少しも四肢に痛みや疲れが残っていないのも驚きです。（いつもは下山後足がパンパンに腫れて大変なのに・・・・） 今回の山行で、松山さん始め、馴染のない私でも仲間として受け入れ、お世話くださった皆様に心から感謝申し上げます。 大貫先生が帰りのバス中での挨拶で仰った「自分を大事に、仲間を大事に」が楽校の目的と意義なのかな、と私なりに解釈しました。